

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）

慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、  
地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献

分担研究報告書

啓発用資料の作成・広報・配布

研究分担者：和田 淳 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部・教授

研究分担者：中川直樹 旭川医科大学・医学部・講師

研究分担者：柏原直樹 川崎医科大学・医学部・教授

研究分担者：伊藤孝史 島根大学・医学部附属病院・准教授

研究協力者：内田治仁 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部・教授

研究要旨

医療従事者、行政機関、患者・家族、国民全体に対して、CKDの普及・啓発を全国展開するために各都道府県における市民公開講座の実態調査および啓発イベントの支援を行った。

日本腎臓病協会と連携し全国での普及啓発活動を把握することができ、今後の普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築に向けての基礎的知見を得ることができた。この結果をもとに、2020年度に向けて対策を検討する。

A. 研究目的

2004年我が国において慢性腎臓病（CKD）という概念が始まり、成人の8人に1人がCKDに該当することから今世紀における新たな国民病として注目を浴びている。CKDは末期腎不全の強力な増悪因子であること、および心血管イベントの危険因子であることから、発症予防とともに重症化予防が重要である。定期的に健診を受診することで異常を早期に発見し、状況に応じて適切な早期介入をすることがCKDの進展・重症化予防につながる。現在もなお日本各地において「慢性腎臓病」「CKD」といった言葉の認知度は低くとどまっており、一般市民に対してCKDを普及啓発しその認知度をあげることで、早期介入に向けた行動変容に対する効果が期待される。そこで今年度我々は、CKD普及啓発を効率よく進めるために、活用しやすい資料作成、広報、および資料配布を目的とした。

B. 研究方法

「一般市民」といっても、若年から高齢者まで対象年齢層は幅広く、個人個人で情報を得る手段は様々であるため、以下の資料をそれぞれ作成していくこととした。これらの資料には個人的な情報は一切含まれない。

<作成資料>

1. 懸垂幕（図1）
2. ロールアップバナー（図2）
3. デジタルポスター（図3）
4. 新聞、地方版等ロールアップバナー（図4）

5. A4チラシ（表裏タイプ）（図5）

6. クイズパネル（図6）

7. 市役所発行市民版広報紙、協会けんぽ広報紙等  
<すでに発行されていて利用可能な資料>

8. 「CKD療養ガイド2018」（東京医学社）

これらを利用し、CKDに関する市民公開講座や普及啓発イベント・医療従事者講習会などの際に活用・配布することで、一般市民の方々の理解度・認知度向上およびメディカルスタッフの人材育成につながるかどうか検討した。

C. 研究結果

様々な資料を作成した。

・3月第2木曜日の世界腎臓デーにあわせて掲出した、懸垂幕をみてCKDの人数の多さを知った、というコメントが複数寄せられるなど反響があった。

・CKD啓発イベントや市民公開講座で利用するための、クイズパネル、A4チラシ（表裏タイプ）、ロールアップバナー、市役所発行市民版広報紙、協会けんぽ広報紙等、「CKD療養ガイド2018」（東京医学社）などは、新型コロナウイルス感染症拡大によりイベントなどがほとんど中止になったため、今年度は準備のみ完了した。

・デジタルポスター、新聞、地方版等に関しては、イベントの案内はできなかったものの、世界腎臓デーに合わせて掲出した。

D. 考察

一般市民の方の情報源としては、テレビおよび新聞がトップ2である。全国版テレビではなかなか放映する機会が少ないが、比較的人口の少ない地域ではCKD講演会を地方局にて放映することができた。また、都市部の駅前など人通りの多いところでは、デジタルポスターといったITを活用することが可能な市町村や地域もあることがわかった。今後広げていきたい。

また懸垂幕は以前と同様、多くの一般市民の目につきやすい場所に掲出することが肝要で、かつ、継続した活用による普及啓発が期待できる。きやすい場所に掲出することが肝要で、かつ、継続した活用による普及啓発が期待できる。

### E. 結論

今年度の啓発用資料の作成・広報・配布について、

様々な形で取り組みを行った。一般市民の方の反応もあり、今後も継続した普及啓発が重要である。

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

なし

#### 2. 学会発表

なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

#### 1. 特許取得

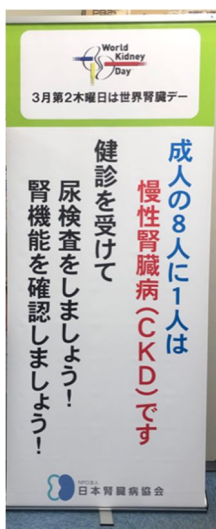
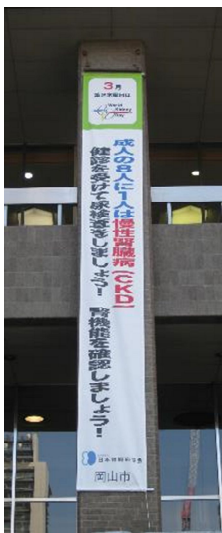
なし

#### 2. 実用新案登録

なし

#### 3. その他

なし



**慢性腎臓病(CKD)は私達の生活をおびやかす新たな国民病です!**

最近、慢性腎臓病(CKD)という新しい病気の概念が注目されています

慢性腎臓病(CKD:Chronic Kidney Disease)とは?

①尿白濁など、腎臓の障害がある  
②糸球体濾過量(GFR)が90未満に低下している  
③慢性腎臓病(CKD)は、腎臓の機能が低下し、血液をろ過する能力が低下する。

慢性腎臓病(CKD)は遠くを歩くのが大変な予備軍!

慢性腎臓病(CKD)は、腎臓の機能が低下し、血液をろ過する能力が低下する。腎臓は、私たちの体にとって重要な臓器であり、腎臓の機能が低下すると、様々な症状が現れます。慢性腎臓病(CKD)は、腎臓の機能が低下し、血液をろ過する能力が低下する。腎臓は、私たちの体にとって重要な臓器であり、腎臓の機能が低下すると、様々な症状が現れます。

慢性腎臓病(CKD)は、腎臓の機能が低下し、血液をろ過する能力が低下する。腎臓は、私たちの体にとって重要な臓器であり、腎臓の機能が低下すると、様々な症状が現れます。

慢性腎臓病(CKD)は、腎臓の機能が低下し、血液をろ過する能力が低下する。腎臓は、私たちの体にとって重要な臓器であり、腎臓の機能が低下すると、様々な症状が現れます。

**慢性腎臓病(CKD)は治療して治すことができる!**

慢性腎臓病(CKD)は早期発見が大事!必ず健康診断を受けましょう!

慢性腎臓病(CKD)の診断・管理には

尿検査 血液検査 血圧測定 が重要です。

① GFR(糸球体濾過量)とは?

② CKDは治療ができます!慢性腎臓病(CKD)と診断されたら

③ 誰かには要注意です!

### Q.1 腎臓について正しくないものはどれでしょう?

A 握りこぶしくらいの大きさで、そら豆のような形をしている

B 腰のあたりに2個ある

C おしっこをつくり、いらなくなったものを体外に出すはたらきがある

D 心臓から出る血液の3%くらいが腎臓に流れる

E からだのなかの環境を調整している

### 答え D 心臓から出る血液の3%くらいが腎臓に流れる

A 腎臓はそら豆(実質)に似ていますので、握りこぶしくらいの大きさで、そら豆のような形をしています。腎臓は腰(実質)に似ています。腎臓は腰(実質)に似ています。

B 腎臓は腰のあたりに2個あります。腎臓は腰のあたりに2個あります。腎臓は腰のあたりに2個あります。

C 腎臓は、おしっこをつくり、いらなくなったものを体外に出すはたらきがあります。腎臓は、おしっこをつくり、いらなくなったものを体外に出すはたらきがあります。

D 腎臓には心臓から出る血液の約1/10(約10%)が流れます。腎臓には心臓から出る血液の約1/10(約10%)が流れます。

E 腎臓は、からだのなかの環境を調整しています。腎臓は、からだのなかの環境を調整しています。